



KYOTO UNIVERSITY  
2004 - 2005

京都大学概要

# 京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

## 研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

## 教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

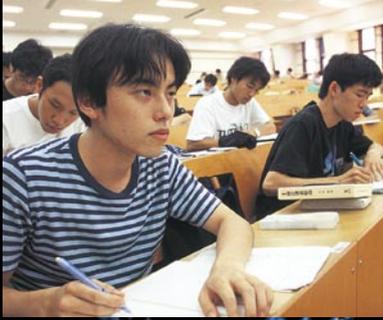
## 社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

## 運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。





# 京都大学の使命



京都大学総長

**尾池 和夫**

京都大学は、1897年に創立されて以来、自由の学風を重んじ、これまで多くの人材を輩出し教育と研究を通して社会に貢献してきました。この伝統を継承・発展させつつ、京都大学の基本理念のもと、いま地球社会

がかかえる、資源の枯渇、人口の爆発的な増加、地球温暖化、自然災害、土壌汚染等、多元的な諸課題の解決に挑戦して、世界水準の卓越した教育研究を通じて、地球社会の調和ある共存に貢献していきます。また、開かれた大学として社会との連携を強め、学術文化の創造と発展、並びに持続可能な社会の実現に貢献します。

京都盆地にある三つのキャンパスを中心とする京都大学は、京都盆地に生まれ育った文化を大切にしつつ、豊かな教養と人間性、強固な責任感と高い倫理性、国際的視野とコミュニケーション能力、さらには社会・経済の変化に対応し得る幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成します。また、安心して快適な教育環境を目指して、キャンパス整備に努めます。

一方、独創的な研究活動を推進し、新しい学問体系の構築や文化の発展に寄与するとともに、世界に開かれた研究拠点の形成に努めます。さらに卓越した総合大学として、研究科、附置研究所、研究センター等のそれぞれの理念や特性に基づき、基礎研究並びに独創的な応用研究を推進することにより、学術文化の創造と発展に貢献するとともに研究成果を広く社会に還元します。

京都大学は、世界や地域に開かれた大学として、諸外国から多数の留学生、外国人研究者を受け入れ、多くの海外の大学等とも共同研究を推進するとともに、産学官連携を推進し、人類社会の発展に貢献します。





3

桂キャンパス

吉田キャンパス

宇治キャンパス

貴船

鞍馬

大原

国立京都  
国際会館

比叡山

琵琶湖

京都御苑

大文字山

嵐山

二条城

鴨川

大津

京都駅

桂川

名神高速道路

宇治川

天王山

淀川

木津川

# 京都の歴史, 文化, 自然を背景に

## 世界的な研究総合大学を目指すキャンパス群

京都大学では、京都盆地を取り囲むように位置する3つのキャンパス群を中心に研究・教育活動を行っています。

吉田キャンパスは、明治30(1897)年に京都帝国大学として創立以来、京都大学の中核部分として今日に至り、学部教育および基本的な学問分野の研究拠点となっています。

宇治キャンパスは、昭和24(1949)年に旧陸軍の敷地を譲り受けて発足した、自然科学・エネルギー系の研究所からなる最先端テクノロジー開発の拠点キャンパスです。

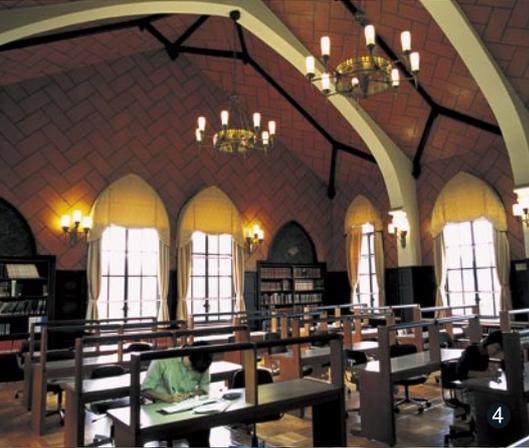
平成15(2003)年に開設された桂キャンパスは、工学・情報学系の大学院および産学官連携を推進する部門等で構成され、基盤科学技術のイノベーションとインベンションを進めるための中軸キャンパスとして位置付けられ、また、地元京都市が推進する桂イノベーションパークとの連携による「科学と技術の融合の場」の形成を目指しています。



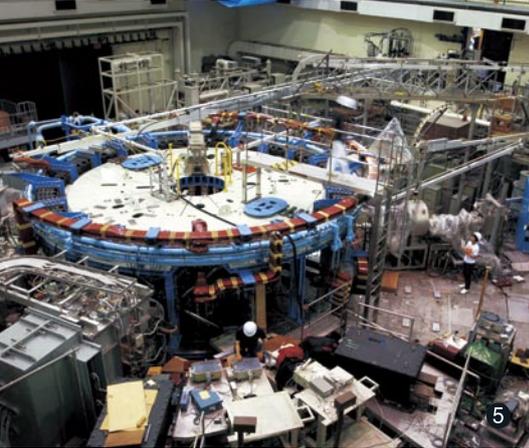
2



3



4



5



桂川

桂離宮

4

6

- ① 京都大学の3キャンパスを上空から見る
- ② 大文字山と吉田キャンパス
- ③ 農学部の実習農場 (吉田キャンパス・北部構内)
- ④ 人文科学研究所附属漢字情報研究センター閲覧室
- ⑤ 核融合プラズマ実験装置を用いた実験風景  
(宇治キャンパス・エネルギー工学研究所)
- ⑥ 桂キャンパス (完成イメージ) より東方向を望む
- ⑦ 京都市西部の丘陵地に立地する桂キャンパス



7



# 未来を先導すべき者として

## 多様な教育体系

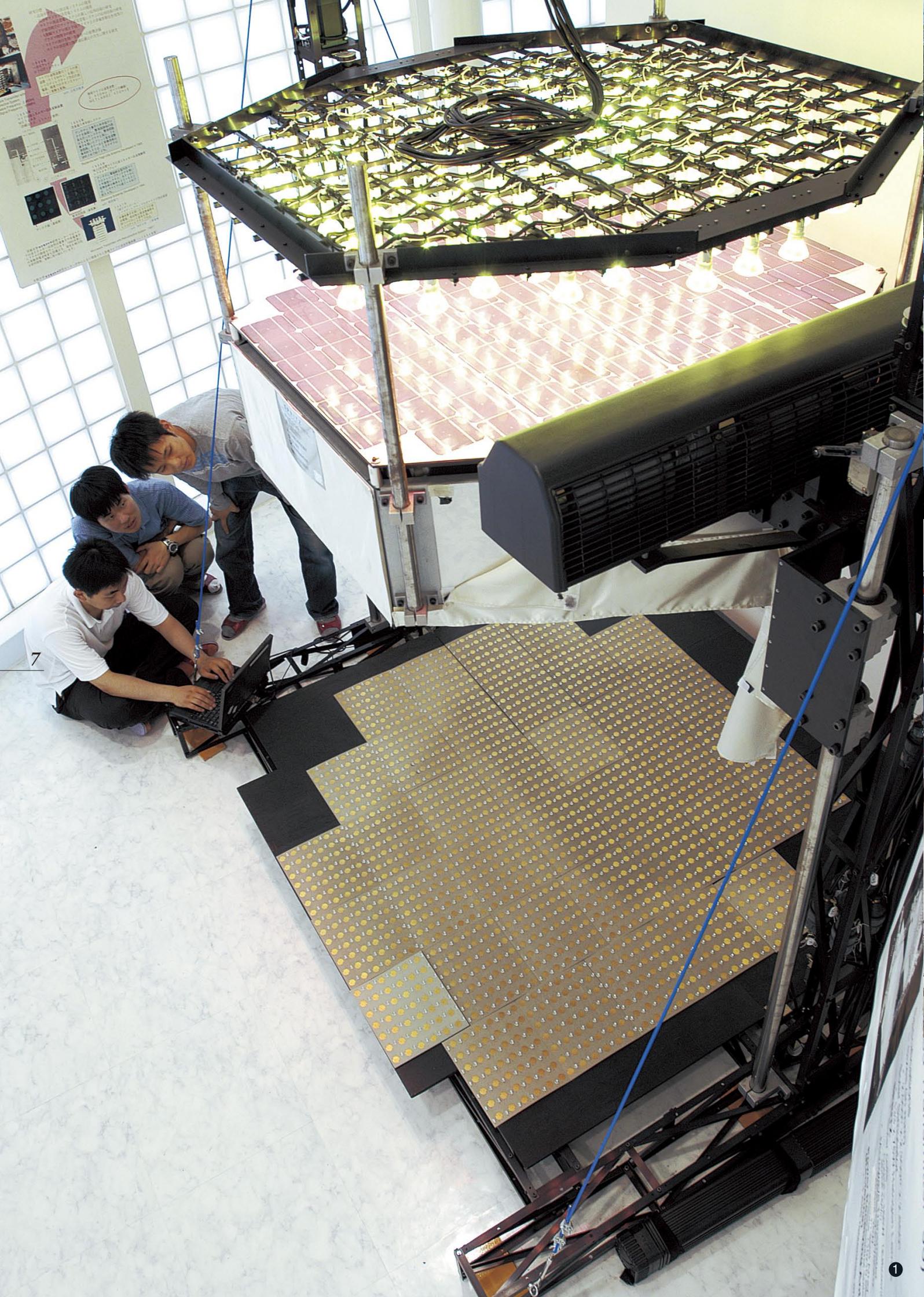
京都大学では、学生一人ひとりが自発的に問題意識をもって授業に参加し、積極的に自ら学ぶという「自学自習」の考えのもと、早い時期から学生が興味のある分野を自由に選択できる学習環境を整えています。

入学後すぐに開始される少人数セミナー「ポケットゼミ」は、全学の教員が自由なテーマで開講するもので、学部に関係なく、興味をもつ学生が参加でき、広範な専門領域の知識に触れることによって視野を広げ、深く考える力を養成します。

また、国際社会で活躍するために不可欠な語学力の修得や、情報リテラシー向上を目的としたカリキュラムと施設の充実、情報技術を用いた個人別の情報伝達システムや履修登録システムの構築など、学習サポートを積極的に進めています。



- ①自動車エンジンの分解/組み立てのゼミ (工学部)
- ②ポケットゼミ「バイオリアクター入門」 (農学部)
- ③ポケットゼミ「農業体験実習ゼミナール」 (同)
- ④ポケットゼミ「世紀末ウィーンへの旅」 (文学部)
- ⑤学部生の実習 (医学部附属病院)
- ⑥ゼミ風景 (法学部)
- ⑦コンピュータを用いたドイツ語授業 (総合人間学部)
- ⑧ Web コンテンツ作成実習 (同)



7

# 最先端を切り開く感動と喜び

卓越した知の創造

京都大学は、5名のノーベル賞受賞者をはじめとして、多くの分野で世界的な研究者を多数輩出してきた、日本を代表する研究大学です。人文科学分野においては、西田哲学など、「京都学派」として広く知られている独自の学問の流れを作ってきました。また、学問における実証性を重要視した「フィールドワーク」は、数々の独創的な成果を上げています。

研究大学としての体制をさらに充実させるため、平成4(1992)年より大学院重点化に取り組み、既存の研究科に加え、5つの独立研究科等を創設しました。

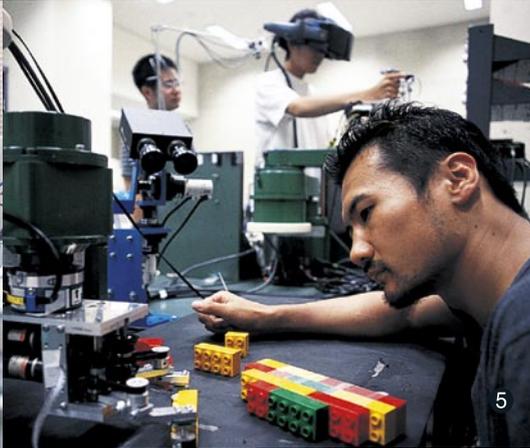
京都大学の高度かつ先端的な研究は、国内外での評価も高く、文部科学省により、平成14年(2002)度から実施されている「21世紀COEプログラム」では、平成14年度の採択拠点が本学より11件採択され、15年度採択11件、16年度採択1件とあわせて計23拠点が形成されました。



2



3



5



8

7



4



6



8

- 1 宇宙太陽発電所模擬システムによる無線電力伝送実験 (生存圏研究所)
- 2 太陽の研究観測 (理学研究科附属天文台)
- 3 COE 実験室における実験 (化学研究所)
- 4 新機能半導体材料の創製実験 (工学研究科)
- 5 メカトロニクス研究室におけるロボットアームの研究開発 (同)
- 6 植物遺伝子の研究 (理学研究科)
- 7 発掘調査 (埋蔵文化財研究センター)
- 8 木質材料実験棟におけるラージフィンガージョイントの耐力向上化実験 (生存圏研究所)
- 9 ニホンザルの調査研究 (霊長類研究所)



9



# 知の財産の多面的運用を目指して

## 学術情報の活用と発信

京都大学附属図書館は、蔵書数約 85 万冊（大学全体で約 600 万冊）を誇る国内有数の大学図書館です。創立より 100 有余年にわたり収集してきた膨大な所蔵資料の中には国宝に指定されている『(鈴鹿本) 今昔物語集』をはじめ、古文獻資料、特殊文庫など、貴重な資料が数多く含まれています。

また、学内で創造する学術・研究情報を発信していくため、平成 10 (1998) 年に電子図書館システムを導入・稼動しました。これによって、学内外でインターネットを介した貴重資料の画像や論文の閲覧、情報検索ができるようになった附属図書館は、学術情報の発信源としても重要な役割を果たしています。

平成 16 (2004) 年には、勉学や研究に必要な映像を閲覧できるほか、音楽等によるリフレッシュスペースとしても利用できる「メディア・コモン」が開設され、多くの学生・教職員が利用しています。



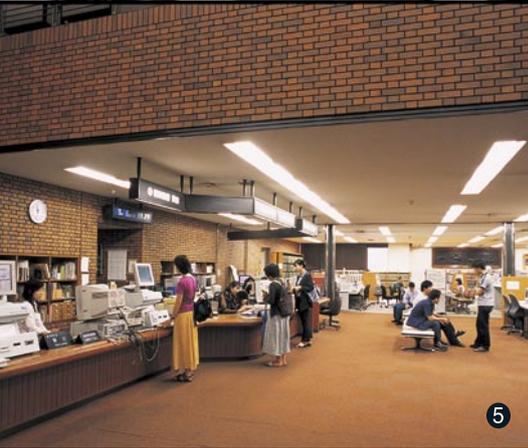
2



3



4



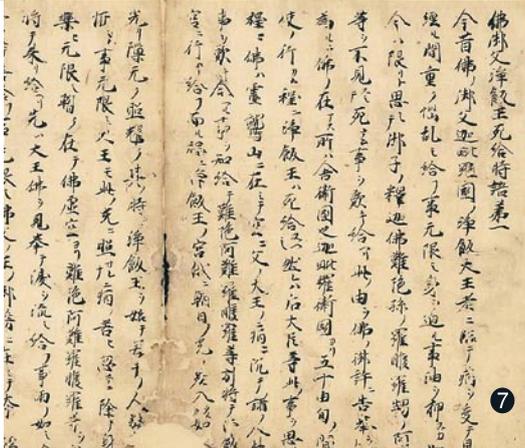
5



10

6

- ① 学習、研究スペースとして広く利用される附属図書館
- ② メディア・コモンの様子
- ③ 附属図書館閲覧室
- ④ 附置研究所の図書室  
(人文科学研究所附属漢字情報研究センター)
- ⑤ 附属図書館メインカウンター
- ⑥ 所蔵図書を検索  
電子図書館で閲覧できる貴重資料の例
- ⑦ 『(鈴鹿本) 今昔物語集』
- ⑧ 『國女歌舞伎繪詞』



7



8



# 情報技術による知の共有と演出

## 先端的な情報メディア環境

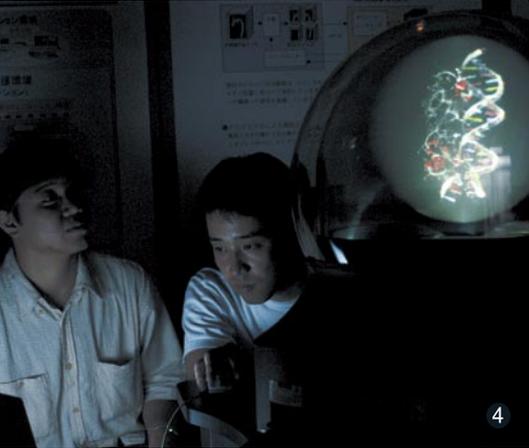
京都大学では、理工系学部のみならず人文社会系の学部においても基礎情報教育が行われています。その中核を担う学術情報メディアセンターは教育用計算機システムや KUIINS と呼ばれる高速ネットワークの展開により、本学の情報教育を支える先端的な情報メディア環境を創出しています。

学術情報メディアセンターは、「エクセレント・ユニバーシティー」に相応しい統合化された情報基盤の構築を目的に設立されたセンターで、京都大学の教育・研究におけるネットワーク・インフラストラクチャー整備からコンテンツ作成支援にいたるまで、すべての階層における情報サービスを提供しています。

教育用計算機システムでは、各学部のサテライト演習室や学術情報メディアセンター内に約 1,200 台のパソコンを設置し、授業に供するとともに、この内 240 台を「オープンスペースラボラトリ」として自習用に開放する運用で情報教育の場を提供しています。

また、遠隔講義支援サービスでは、分散した吉田・宇治・桂のキャンパスを含む学内 15 ヶ所にサテライト講義室を設置して遠隔講義の運用をしているほか、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) との間でも遠隔講義を実施するなど、その利用範囲は今後もさらに広がるものと期待されます。

さらに、センターの研究開発部では情報ネットワーク社会の高度化や、教育・研究の現場と情報ネットワーク社会とのマルチメディア情報技術による双方向・リアルタイムの統合を目指した研究開発を進めています。



- ①学術情報メディアセンター(南館) エントランスロビー
- ②③オープンスペースラボラトリ
- ④全方位型表示装置を使った科学技術計算結果の可視化
- ⑤スタジオにおける教材用映像の制作
- ⑥パソコンによる MRI データの 3 次元可視化



# 地球社会の諸課題への挑戦

専門分野の枠を超えた叡智の結集

京都大学では、21世紀の最重要課題とも言われている地球環境問題について、これまで培ってきたフィールドワークの手法を駆使し、広範囲な調査・研究を進めています。

平成14(2002)年には、大学院地球環境学堂・学舎を設置し、既存の研究科と併せて、より高度な次元でエネルギー問題、食糧問題、生命・福祉に関する問題などに取り組んでいきます。

また、平成15(2003)年には新たな統合学問領域「森・里・海連環学」の創生と発展を目指して、フィールド科学教育研究センターを設置、さらに、平成16(2004)年には旧木質科学研究所と旧宙空電波科学研究所を統合・再編し、人類の生存に必要な領域と空間に関する研究を行う生存圏研究所が発足しました。

一方、多大な被害を及ぼす自然災害から大切な生命・財産を守るべく、関連する研究科と研究所などが連携して、国際的な共同研究を積極的に展開しています。



- ① 足場を組んでの樹木観察  
(フィールド科学教育研究センター研究林)
- ② 水位変化の観測(同)
- ③ 半導体デバイス作製の実験(工学研究科)
- ④ 琵琶湖の水質調査(生態学研究センター)
- ⑤ 地震災害研究部門における構造物震害研究  
(防災研究所)
- ⑥ 稲作の研究(農学研究科附属農場)
- ⑦ コショウランの培養実験(農学研究科附属農場)



# 人・知・技を通じて世界へ

文明・文化の相互理解と協調

京都大学では、世界の舞台で活躍する人材の育成や学術水準の向上などを目的に、積極的な国際交流を行っています。現在では 20 カ国を超える海外の大学と大学間学術交流協定を結び、多数の学生・研究者を派遣するとともに、2,000 名を上回る留学生・外国人研究者を受け入れています。

受け入れた留学生は、本学学生とともに英語による「京都大学国際教育プログラム (KUINEP)」などを通じて相互交流を行い、また、交流のための施設として「KI・ZU・NA」を本部構内に設置したほか、宿泊施設である「国際交流会館」の充実を図っています。

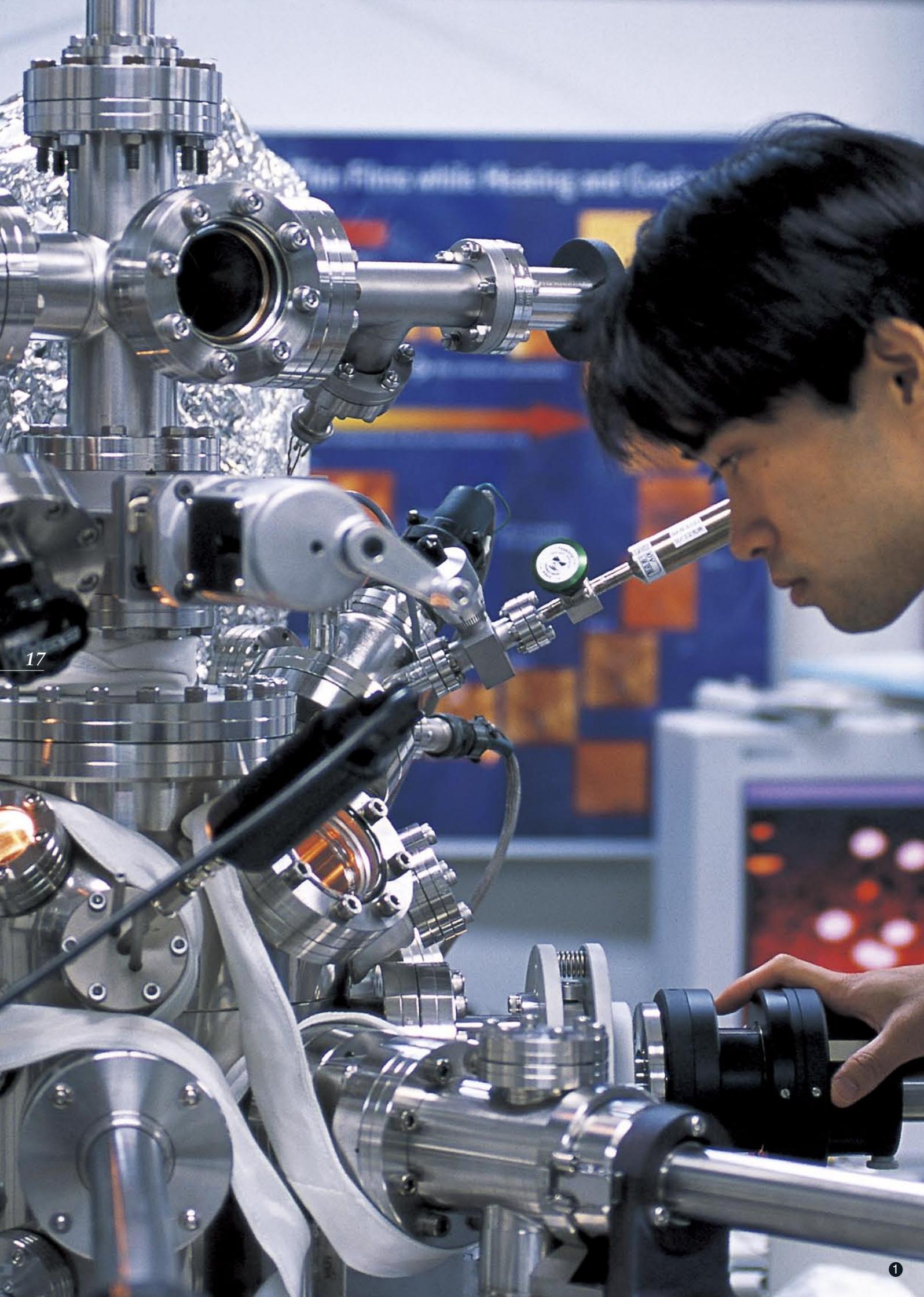
一方、日本人学生の積極的な海外留学を促進するため、本学以外の学生も参加対象とした「京都大学留学フェア」を開催し、海外留学についての情報提供を行っています。

国際学術組織における活動としては、「東アジア研究型大学協会 (AEARU)」および環太平洋大学協会 (APRU)」へ参加しています。また、平成 13 (2001) 年には、宇宙電波科学研究センター (現・生存圏研究所) がインドネシアに赤道大気レーダーを設置するなど、人材・知識・技術のあらゆる面で交流を推進しています。

さらに、途上国支援や海外での「京都大学国際シンポジウム」の開催など、多面的な貢献を実現しています。



- ① 本学留学生と日本人学生の交流
- ② 留学生の交流施設「KI・ZU・NA」
- ③ 国際交流会館における外国人家族を対象とした生け花教室
- ④ エジプトでのスフィンクス劣化に関する調査 (工学研究科)
- ⑤ 京都大学留学フェア
- ⑥ 留学生 70 名が参加した九州見学旅行での様子 (別府・血の池地獄の足湯)



# 知的創造サイクルの形成

## イノベーション創出と産学官連携の推進

京都大学では、将来の産業を支える革新的技術の開発と、起業家マインドを持った研究者を育成するための「京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (KU-VBL)」や、産学官連携活動を組織的に推進する組織として「国際融合創造センター (IIC)」を設置し、日本で初めての包括的産学融合アライアンスなどの多くの産学連携を実施しています。

さらに平成 17 (2005) 年 4 月、大学で創出される知的財産を適正に管理・運用し、さらなる独創的・基盤的研究の推進を可能とする『知的創造サイクル』の形成を目指すため、知的財産部も含めた「国際イノベーション機構 (IIO)」を設立し、窓口の一元化、京都大学での世界的な産学官連携活動の推進と支援を行っています。



2



3



4

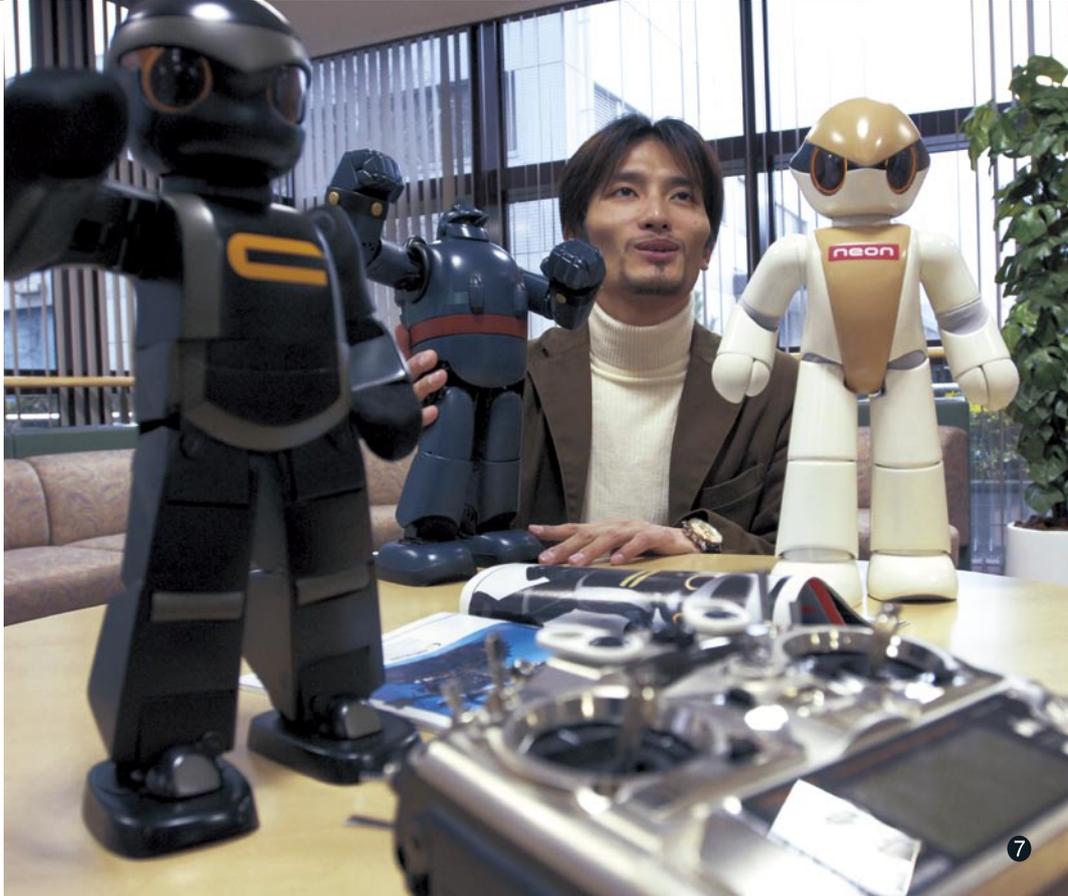


5



18

6



7

- ①② 先進電子材料の研究開発 (KU-VBL)
- ③ 教職員・学生を対象とした起業相談 (同)
- ④ 国際融合創造センター (IIC)
- ⑤ 「包括的産学融合アライアンス」により開発されたフレキシブルディスプレイ用、有機発光トランジスタおよび低熱膨張透明基板 (IIC)
- ⑥ 第3回ナノテクスクール
- ⑦ 工学部卒業生によって起業されたベンチャー「ロボ・ガレージ」



# 生命の真理の追究と未知への挑戦

人類の福祉への貢献

京都大学の医学教育・研究においては、医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、基礎医学、臨床医学、社会医学の3つの分野において常に新しい医学領域の開拓と革新的な医療に関する高度な教育・研究を行っています。

また、病床数1,240床をもち、一日平均約2,300名の外来患者さんが来院される医学部附属病院においては、探索医療センター、医療安全管理室、卒後臨床研修センター、女性のこころとからだの相談室、外来化学療法部を新設するなど、良質な医療の創生や充実、発展に努めているほか、平成13(2001)年に完成した新しい外来棟や受付のシステムでは、患者さんの立場にたったサービスの向上と充実を念頭に、心地よく診療を受けられるようなアイデアを随所に盛り込み、より高い満足が得られる医療サービスの提供を目指しています。

さらに、平成16(2004)年には1,000例目の生体肝移植達成、翌17(2005)年には世界初の生体膵島移植を実施するなど、最先端の移植医療が行われています。



2



3



4



5



6



7

- ① デイ・サージャリー診療部における手術 (附属病院)
- ② 総合診療部における診察 (同)
- ③ 新外来棟に隣接して設けられた「京大病院前ホスピタルパーク」
- ④ 附属病院新外来棟ロビー
- ⑤⑥ デイ・サージャリー診療部における術後のステップダウン・リカバリーの様子 (附属病院)
- ⑦ 細胞ビデオイメージングを用いた薬剤作用解析 (医学研究科)



# 研究成果の社会への還元

社会に開かれた大学を目指して

京都大学のホームページ (<http://www.kyoto-u.ac.jp/>) では、各部署ごとに研究成果や所蔵する貴重資料などを広く公開し、社会や市民の方々に本学の教育・研究活動への理解や支援が得られるように努めています。

一般公開されている総合博物館では、「社会に開かれた大学」の拠点として、常設・企画展示などにより研究成果を公開するとともに、毎月1回開催のレクチャーシリーズでは、京都大学の最先端の研究成果をわかりやすく説明しています。また、大学主催の春秋講義や市民講座、各部署主催の公開講座を通して、青少年の科学的探究心の育成、あるいは社会人の知的余暇活動や生涯教育の支援を推進しています。

また、2002年度から年に一度、夏休みに、受験生を対象とした「京都大学オープンキャンパス」を開催し、模擬授業や施設見学、キャンパスツアーなどを実施しています。

本学が培った教育研究の成果を広く社会に還元するために、平成17(2005)年から始まる「ジュニアキャンパス」では、中学生に学問の本質に触れる機会を提供し、学問への関心を高め、将来進むべき道を考える支えとなるための特別授業(公開講座)を、保護者に対しては、いかに子供の特質を伸ばすかという公開講座を開催します。



2



3



4



5



7



6



8

- ① 総合博物館展示室
- ② 小学生を対象とした夏休みサイエンス教室  
「三葉虫にさわってみよう」(総合博物館)
- ③ 夏休み体験授業「放射線って何だろう？」  
(放射性同位元素総合センター)
- ④ 市民向け公開講座  
(フィールド科学教育研究センター)
- ⑤⑥⑦ 総合博物館展示室
- ⑧ オープンキャンパスの様子



# 地域とともに、市民とともに

## 市民へ向けた情報発信とキャンパス開放

京都大学では、世界的規格の大学づくりを目指していく一方で、大学創設以来、京都という地域の持つ伝統・文化の中で育まれてきた自由の学風の伝統を継承し、さらに学問の自由の確立に貢献していきます。

長い間、京都大学のシンボリック建築物として親しまれてきた「時計台」は平成15(2003)年に「百周年時計台記念館」として生まれ変わり、「歴史展示室」では大学の百年の歴史をパネルなどで紹介するとともに、総合案内や、市民の方々でも気軽に利用できるショップ、レストランなどを設けました。また、同館内の百周年記念ホールでは市民のみなさんも参加いただける「京都大学未来フォーラム」を定期開催するなど、社会と大学とのインターフェースとしての機能を果しています。

桂キャンパスは、地域及び環境との共生をコンセプトに設計されており、キャンパスと地域を分かち壁を設けず、学生・教職員のための福利厚生施設も地域住民の方々に、広くご利用いただいています。



①くすのき絵画大賞 受賞作品

②歴史展示室(百周年時計台記念館)

③レストラン「ラトゥール」(同)

④カフェ・レストラン「カンフォーラ」

⑤「京都大学未来フォーラム」の様子

⑥正門インフォメーションセンター

⑦地域・市民のみなさんにも開かれたキャンパス  
(桂キャンパス)



# 自己の研鑽と人間性の醸成

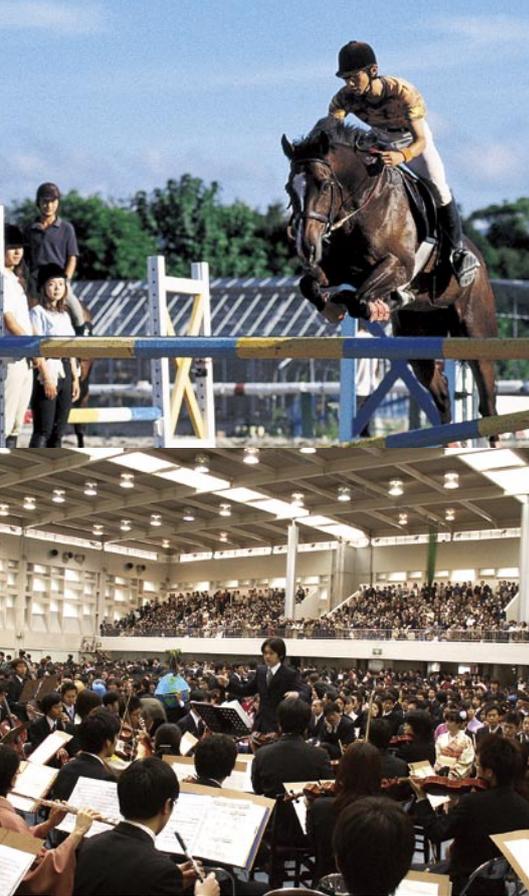
様々な枠を越えた交流と協調

京都大学での学生生活は、卓越した専門分野の学習、研究活動に限られることなく、様々な活動におよびます。意欲にあふれた活動の中には多くの出会いがあり、様々な枠を越えた交流と協調は、自らの視野を大きく広げ無限の可能性へ挑戦するスピリットを養ってくれます。

修学以外のもうひとつの自己の表現の場として、課外活動が活発に行われており、多くの学生は、運動系・文化系のクラブやサークルに積極的に参加し自主性、創造性をそれぞれのフィールドで存分に発揮し、個性を磨き育てています。

また、活気に満ち溢れたキャンパスライフが安全・安心で快適に過ごせるよう保健診療所やカウンセリングセンターをはじめ、参考図書はもとより日用品まで揃う購買コーナーやコンビニエンスストア、栄養のバランスがとれる食堂や仲間と語り合えるカフェテリアなどを設置しています。

学生の知力、気力、体力が十分に培えるとともに国内外最先端の研究者や国際社会のリーダーを輩出できるように、キャンパスアメニティーの充実に努めています。



# 京都大学環境憲章

## 基本理念

京都大学は、その伝統によって培われた自然への倫理観と高度な学術性や国際的視野を活かし、環境保全のための教育と研究を積極的に推進し、社会の調和ある共存に貢献する。

また、本学は、人類にとって地球環境保全が最重要課題の一つであると認識し、大学活動のすべてにおいて環境に配慮し、大学の社会的責務として環境負荷の低減と環境汚染の防止に努める。

## 基本方針

1. 環境保全の活動を積極的に進めるため、本学のすべての構成員（教職員、学生、常駐する関連の会社員等）の協力のもと、継続性のある環境マネジメントシステムを確立する。
2. 教育・研究活動において、環境に影響を及ぼす要因とその程度を十分に解析し、評価するとともに、環境保全の向上に努める。
3. 環境関連の法令や協定を遵守することはもとより、可能な限り環境負荷を低減するため、汚染防止、省資源、省エネルギー、廃棄物削減等に積極的に取り組み、地域社会の模範的役割を果たす。
- 27 4. 環境マネジメントシステムをより積極的に活用し、地域社会と連携しつつ、本学の構成員が一致して環境保全活動の推進に努める。
5. 本学構成員に環境保全活動を促す教育を充実させるとともに、環境保全に関連する研究を推進し、その成果を社会へ還元する。
6. 本学が教育と研究における国際的拠点であることから、環境保全面での国際協力に積極的な役割を果たす。
7. 環境監査を実施して、環境マネジメントシステムを見直し、環境保全活動の成果を広く公開する。



## 京都大学の教職員像

京都大学の教職員は、京都大学の基本理念の下に、その将来像の実現にむけて、教育、研究、支援業務、大学・部局の運営のそれぞれにおいて自らの使命を自覚し、その職責の遂行に全力を尽くす。

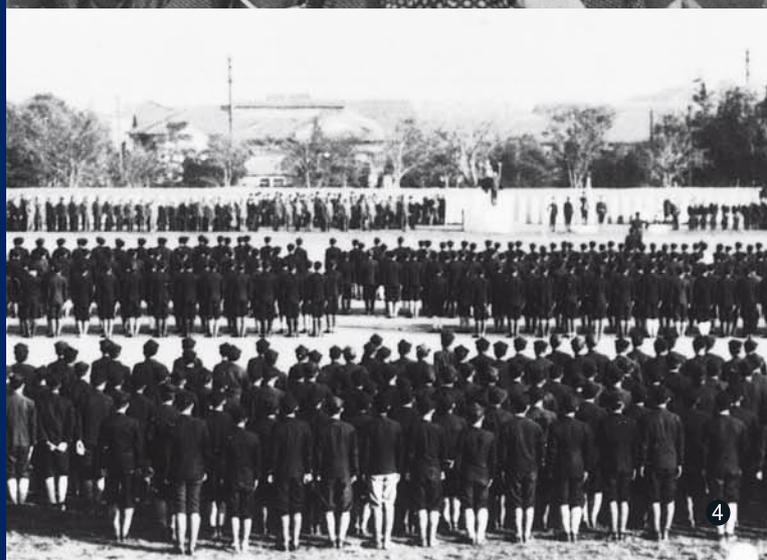
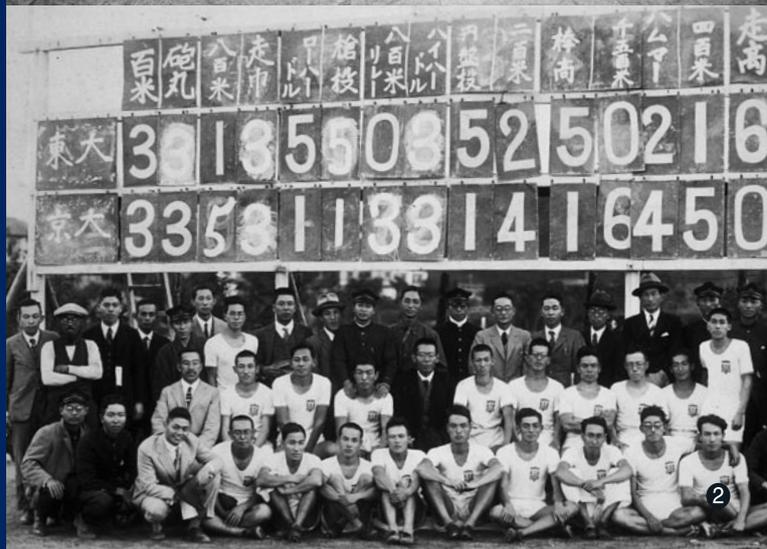
教職員は、最善の努力を傾けて、教育・研究の双方において能う限りの高い水準を目指す。学問の自由は、これを遂行するための最も基本的な要件であり、社会規範や倫理に十分な配慮を払いつつ、教育・研究のすべての場において尊重される。

教育は、学術・文化の継承と個々の学生の能力開発・人格育成の営みであり、その実施において教職員は、性、民族、宗教などによる差別をしてはならない。研究は、学術・文化の発展と人類共有の知的資産の蓄積に資すべき営みであり、その推進において教職員は、高い倫理性と清廉性を保持しなければならない。

教育・研究を支援し、大学・部局を運営していく業務は、その持続的発展のために極めて重要である。教職員は、大学が社会的存在であることを認識し、高次の専門的能力と総合的視野をもってその職責を全うできるよう常に自己研鑽に努め、教育・研究基盤の充実、大学・部局の円滑な運営と発展に寄与する。

# 京都大学の沿革

- 明治30年 6月 京都帝国大学創設
- 9月 理工科大学開設
- 32年 9月 法科大学, 医科大学開設
- 12月 附属図書館設置
- 12月 医科大学附属病院設置
- 39年 9月 文科大学開設
- 大正 3年 7月 理工科大学が分けられ工科大学, 理科大学となる
- 8年 2月 分科大学を学部と改称
- 5月 経済学部設置
- 12年 11月 農学部設置
- 13年 3月 学生健康相談所設置
- 5月 農学部附属農場設置
- 5月 農学部附属演習林設置
- 15年 10月 化学研究所附置
- 昭和 11年 8月 ベルリンオリンピック三段跳びで, 経済学部卒業生  
田島直人が世界新記録で金メダル, 法学部卒業生  
原田正夫が銀メダルを獲得
- 昭和 14年 8月 人文科学研究所附置
- 16年 3月 結核研究所附置
- 11月 工学研究所附置
- 19年 5月 木材研究所附置
- 21年 9月 食糧科学研究所附置
- 22年 10月 京都帝国大学を京都大学と改称
- 24年 5月 新制京都大学設置
- 5月 教育学部設置
- 5月 第三高等学校を統合
- 5月 医学部附属病院を医学部附属病院と改称
- 8月 分校設置
- 8月 学生健康相談所を保健診療所と改称
- 24年 11月 理学部教授湯川秀樹, ノーベル物理学賞受賞
- 25年 3月 第三高等学校廃止
- 5月 宇治分校開設
- 26年 4月 防災研究所附置
- 28年 4月 新制大学院設置
- 8月 基礎物理学研究所附置
- 29年 3月 分校を教養部と改称
- 30年 7月 新制大学院医学研究科設置
- 31年 4月 ウイルス研究所附置
- 35年 4月 薬学部設置
- 36年 5月 宇治分校廃止
- 5月 工業教員養成所設置
- 37年 4月 経済研究所附置
- 38年 4月 教養部設置
- 4月 数理解析研究所附置
- 4月 原子炉実験所附置
- 40年 4月 東南アジア研究センター設置
- 10月 朝永振一郎, ノーベル物理学賞受賞
- 41年 4月 保健管理センター設置
- 42年 6月 霊長類研究所附置
- 6月 結核研究所を結核胸部疾患研究所と改称
- 44年 4月 大型計算機センター設置
- 45年 3月 工業教員養成所廃止
- 8月 廣中平祐, フィールズ賞受賞
- 46年 4月 放射性同位元素総合センター設置
- 46年 4月 工学研究所を原子エネルギー研究所と改称
- 47年 5月 体育指導センター設置
- 50年 4月 医療技術短期大学部設置
- 51年 5月 ヘリトロン核融合研究センター設置
- 5月 放射線生物研究センター設置
- 52年 4月 環境保全センター設置
- 7月 埋蔵文化財研究センター設置
- 53年 4月 情報処理教育センター設置
- 55年 4月 医用高分子研究センター設置
- 56年 4月 超高層電波研究センター設置
- 10月 工学部教授福井 謙一, ノーベル化学賞受賞
- 61年 4月 アフリカ地域研究センター設置
- 62年 10月 利根川進, ノーベル生理学・医学賞受賞



- 63年 4月 遺伝子実験施設設置
- 4月 結核胸部疾患研究所を胸部疾患研究所と改称
- 12月 国際交流センター設置
- 平成 2年 3月 医用高分子研究センター廃止(10年時限)
- 6月 生体医療工学研究センター設置
- 6月 留学生センター設置(国際交流センター廃止)
- 8年 森重文, フィールズ賞受賞
- 3年 4月 大学院人間・環境学研究科設置
- 4月 生態学研究センター設置
- 4月 木材研究所を木質科学研究所と改称
- 4年10月 総合人間学部設置
- 5年 3月 教養部廃止
- 6年 6月 高等教育教授システム開発センター設置
- 8年 3月 アフリカ地域研究センター廃止(10年時限)
- 4月 大学院エネルギー科学研究科設置
- 4月 アフリカ地域研究資料センター設置
- 4月 学生懇話室設置
- 5月 原子エネルギー研究所とヘリオトロン核融合研究センターを統合しエネルギー理工学研究所に改組・転換
- 9年 4月 総合博物館設置
- 4月 総合情報メディアセンター設置(情報処理教育センター廃止)
- 10年 4月 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科設置
- 4月 大学院情報学研究科設置
- 4月 胸部疾患研究所と生体医療工学研究センターを統合し再生医学研究所に改組・転換
- 11年 4月 大学院生命科学研究科設置
- 6月 学生懇話室をカウンセリングセンターに改組
- 12年 4月 超高層電波研究センターを宙空電波科学研究センターに改組
- 11月 大学文書館設置
- 13年 4月 食糧科学研究所廃止(大学院農学研究科と統合)
- 4月 国際融合創造センター設置
- 10月 野依良治, ノーベル化学賞受賞
- 14年 3月 大学情報収集・分析センター設置
- 4月 大学院地球環境学舎・学堂設置
- 4月 大型計算機センターと総合情報メディアセンターを統合し学術情報メディアセンターに改組・転換
- 4月 低温物質科学研究センター設置
- 4月 福井謙一記念研究センター設置
- 15年 4月 高等教育研究開発推進機構設置
- 4月 高等教育研究開発推進センター設置
- 4月 高等教育教授システム開発センター廃止
- 4月 フィールド科学教育研究センター設置
- 4月 農学研究科附属演習林廃止
- 4月 体育指導センター廃止
- 10月 医学部保健学科設置
- 16年 4月 国立大学法人京都大学設立
- 法学研究科基礎法学専攻, 公法専攻, 民刑事専攻, 政治学専攻を法政理論専攻, 国際公共政策専攻(修士課程), 法曹養成専攻(修士課程, 法科大学院)に改組
- 4月 木質科学研究所と宙空電波科学研究センターを統合し生存圏研究所に改組・転換
- 4月 東南アジア研究センターを廃止・転換し, 東南アジア研究所附置
- 4月 遺伝子実験施設廃止



①図書館閲覧室 明治40(1907)年頃 ②東京大学との対抗戦における陸上競技の得点表 大正15(1926)年 ③『寄宿舎誌』に掲載された「ヒゲ党」を名乗る学生たち ④出陣学徒壮行会の様子 昭和18(1943)年 ⑤新制京都大学第1期の農学部学生 昭和24(1949)年 ⑥プリンストン高等研究所構内を散策する湯川秀樹。湯川の左はアインシュタイン ⑦1970年代の教養部のドイツ語授業

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

編集・発行：京都大学 総務部広報課  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL 075-753-2071  
E-mail [kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:kohho52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)